駒澤大学心理学論集，2019，第21号，41-62
Komazawa Annual Reports of Psychology, 2019, 21, 41-62

歩　み

心理学研究室 50 年の歩み
―開室 30 年から 50 年の 20 年間―

久保　尚也

Preface, Laboratories and experimental device, Human organization, Curriculums, Titles of doctal and master's theses

1．はじめに

本研究室は，駒澤大学大学院に心理学専攻修士課程が設置された 1968 年（昭和 43 年）に開室した。当時の駒澤大学には心理学科が学部に存在しない状況であり，禅研究所のもと変則的に大学院の修士課程を設置した経緯をもつ。翌年の 1969 年（昭和 44 年）に本学科の前身となる学部心理学コース（社会学科心理学コース）が，翌 1970 年（昭和 45 年）に大学院の博士後期課程が設置され，研究室開室から 3 年後に学部と大学院の両方がそろう形となった。そして研究室開室から 30 年後の 1998 年（平成 10 年）に，社会学科心理学コースは心理学科として独立した。この間の 30 年については，駒澤大学心理学論集第 1 号の『心理学研究室 30 年の歩み』に，研究室が設立された背景や創立者の秋重義治先生にまつわるエピソードなどをまじえ詳細にまとめられている。

2018 年の今年は，駒澤大学心理学研究室が誕生してから 50 年，駒澤大学文学部心理学科が誕生してからちょうど 20 年の節目を迎える。

そこで本紀要において「心理学研究室 50 年の歩み」，特に学科として独立してからの 20 年間を中心に取りまとめることとした。

2．研究室・実験室の状況

2-1．研究室

1987 年（昭和 62 年）に仏教研修館から第 1 研究館の 3 階に心理学研究室が移転してからこれまで移転はない。しかし第 1 研究館内の配分については変化があった。第 1 研究館に移転した当初は，1301 室から 1309 室までの 9 室に教員研究室，事務室，資料室が配分されていた。

2018 年（平成 30 年）現在は，本学科教員の増員に伴い，第 1 研究館移転当初から配分されていた 1301 室から 1309 室までの 9 室と，1310 室，1311 室，1313 室と 1315 室の 4 室の計 13 室が心理学研究室として配分されている（図 1）。

2-2．心理学実験室

実験室についてはこの 20 年間で大きく様変わりした。心理学実験室ごとにその変遷を記載する。学科独立時，第Ⅰ心理学実験室と第Ⅱ心理学実験室の両実験室を合わせると実験室は 17 室あった。現在では第Ⅰ心理学実験室，第Ⅱ心理学実験室，第Ⅲ心理学実験室をあわせて 16 室となり，学科独立時より 1 部屋減少している。

2-2-1．第Ⅰ心理学実験室　1998 年（平成 10 年）時，仏教研修館 1 階にあった第Ⅰ心理学実験

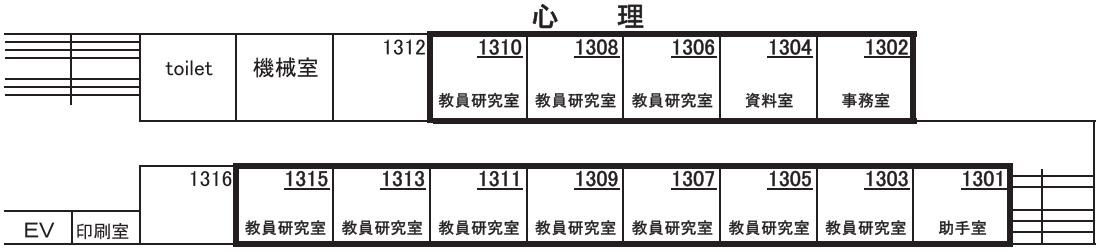

図 1　研究室の配置（2018 年度現在）

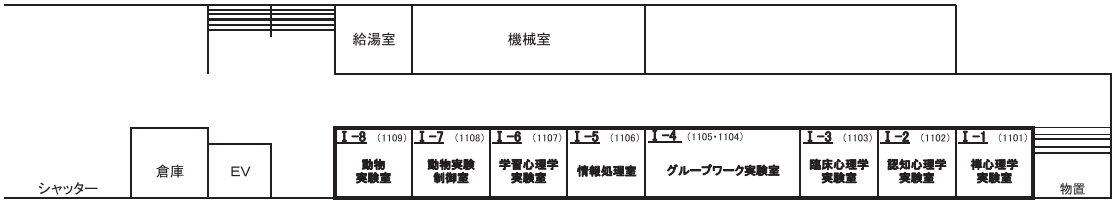

図２　第Ⅰ心理学実験室（2018 年度現在）

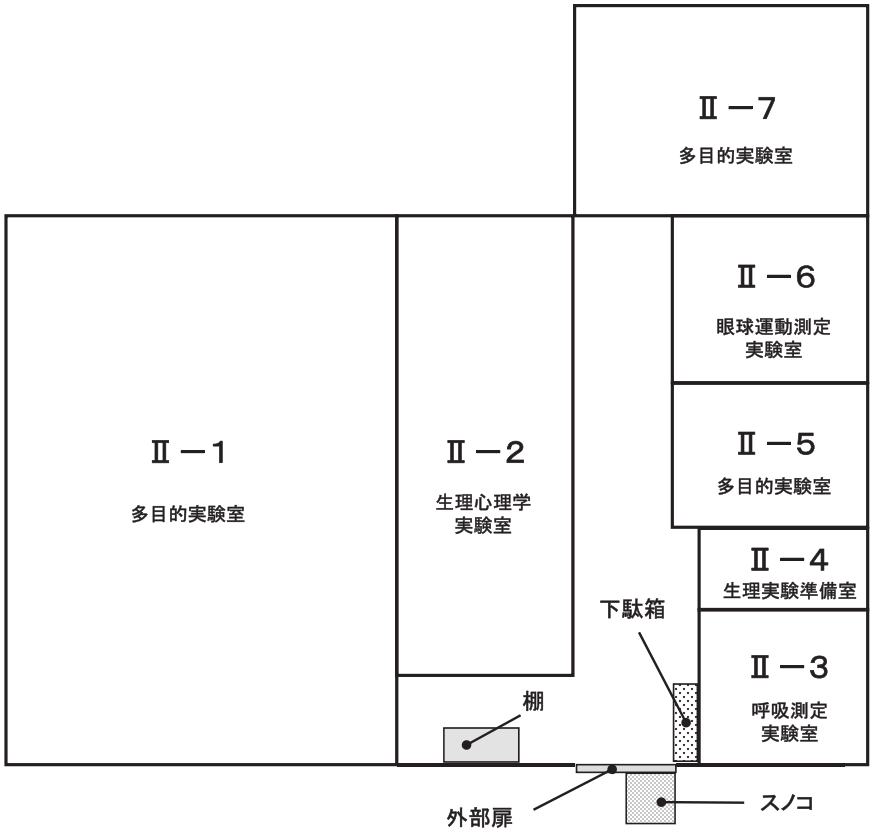

図３　第Ⅱ心理学実験室（2018 年度現在）

室は，現在は第１研究館の１階，1101 室から 1109 室にある。

仏教研修館から第１研究室に移転した背景には 130 周年記念棟，今年から運用の開始された『種月館』の建設が大きくかかわっている。新校舎の建設に際し，サークル棟と仏教研修館の区画を東京都に提供し，避難経路兼，遊歩道として整備しなければならなかった。そのため，仏教研修館は取り壊しとなり，深沢キャンパスに移転した心理学専攻大学院生室のあった第１研究館の１階部分に心理学実験室が移転されることとなった。東京都に提供する土地の区画内には，初期の心理学研究室に在籍していた秋重先生のご息女，小野浩一先生，西田順三先生の３名によって植林された梅の木がある。この木は伐採をまぬがれ，今もなお現存していることも記しておく。

2007 年（平成 19 年）に仏教研修館から現在の第１研究館１階に第Ⅰ心理学実験室１から実験室８（Ⅰ-1 からⅠ-8）の移転がなされた（図２）。ハトの動物実験室を含むいくつかの実験室については，仏教研修館に存在したときと同様の機能を保有する形での移転となった。多目的室の一部につ

表１
第Ⅰ心理学実験室の主な使用用途

	仏教研修館	第１研究館
Ⅰ-1	多目的室	禅心理学実験室
Ⅰ-2	臨床検査室	認知心理学実験室
Ⅰ-3	知覚実験室	多目的実験室
Ⅰ-4	情報処理室	グループワーク室
Ⅰ-5	情報処理室	情報処理室
Ⅰ-6	多目的実験室	学習心理学実験室
Ⅰ-7	多目的実験室	動物実験制御室
Ⅰ-8	学習心理学実験室	動物実験室
Ⅰ-9	動物実験制御室	
Ⅰ-10	動物実験室	

いては行動観察ができるようワンウェイミラーや観察用の備え付けカメラ，また観察専用のモニタールームなどが設置された（現在まで稼働したところは見たことはない）。各部屋の主な使用用途については表１を参照していただきたい。また，Ⅰ-5の情報処理室には今後永久に使用しないであろう高圧のコンセントも存在している。このことも本研究室の歴史のひとつとして記載しておく。なぜこのようなコンセントが設置されたかについては不明である。

2-2-2．第Ⅱ心理学実験室　４号館１階にある第Ⅱ心理学実験室は，1981年（昭和58年）に設置されて以来大きな変化はない（図３）。表２に設置時と現在の使用用途について比較した。

使用用途が大きく変わったのはⅡ-3，Ⅱ-6の２部屋であろう。Ⅱ-3は設置当初は多目的室として使用されていたが，現在は茅原正教授の管理のもと，呼吸測定の実験を主とした実験室となっている。Ⅱ-6についても，眼球運動測定器が導入され，谷口泰富教授のもと眼球運動を用いた虚偽検出の研究が行われている。

2-2-3．第Ⅲ心理学実験室　当初，体育館に多目的実験室として2007年（平成19年）に設置された。しかしこちらの実験室も130周年記念棟建設に伴う体育館の取り壊しにより，７号館の５階，7-502に移転することとなった。現在は心理学科専用のリソグラフが設置され，多目的実験室の機能を保持しつつ，卒業研究で使用する質問紙の印刷が可能な部屋となっている。

３．教員人事

本項では学科が独立した1998年度（平成10年度）から2018年度（平成30年度）までの本学科の専任教員・非常勤講師の氏名を記していく。研究室設立から学科独立までの教員人事については駒澤心理学論集１巻に掲載されている30年の歩みを参照していただきたい。

表２
第Ⅱ心理学実験室の主な使用用途

	昭和58年	平成30年
Ⅱ-1	多目的実験室	多目的実験室
Ⅱ-2	生理心理学実験室	生理心理学実験室
Ⅱ-3	多目的室	呼吸測定実験室
Ⅱ-4	生理実験準備室	生理実験準備室
Ⅱ-5	多目的実験室	多目的実験室
Ⅱ-6	多目的実験室	眼球運動測定実験
Ⅱ-7	多目的実験室	多目的実験室

3-1．専任教員

本学科が設立された1998年度（平成10年度）から現在までの助手を含む本学科の専任教員の氏名を表３に示す。また，表４に歴代の学科主任，専攻主任をまとめた。

学科設立当初（平成10年度）の教員は，小野浩一先生，佐々木雄二先生，谷口泰富先生，茅原正先生，寺岡隆先生，永田陽子先生の６名体制であった。翌年度の1999年度（平成11年度）には，駒澤大学北海道教養部の廃止に伴い，間島英俊先生が本学科に着任することとなった。また1999年度で寺岡隆先生はご退職となり，2000年度（平成12年度）に茨木博子先生が後任として着任された。

2002年度（平成14年度）には学部・大学院の学生の増加に対応するために，教員が増員され，勝俣暎史先生が着任された。その４年後の平成18年度には，有光興記先生と鈴木常元先生が着任され，一時的に学科教員が10名となる大所帯となった。その後，平成18年度に佐々木先生が，平成19年度に勝俣先生が相次いでご退職され，平成20年度に八巻秀先生が本学に着任された。この平成20年度より，有光興記先生，茨木博子先生，小野浩一先生，鈴木常元先生，谷口泰富先生，茅原正先生，永田陽子先生，間島英俊先生，八巻秀先生の９名体制で学科の運営がなされることとなった。そして平成28年度に小野浩一先生と有光興記先生がご退職され，平成29年度に遠藤歩先生と藤田博康先生が，そして平成30年度に学

表３
専任教員一覧

氏名		在任期間
有光　興記	学部・院	平成 18-29 年度
茨木　博子	学部・院	平成 12-在任中
遠藤　歩	学部・院	平成 29-在任中
小野　浩一	学部・院	昭和 54 年度-平成 29 年度
勝俣　暎史	学部・院	平成 14-19 年度
佐々木　雄二	学部・院	昭和 46-52 年度，平成 10-18 年度
鈴木　常元	学部・院	平成 18-在任中
谷口　泰富	学部・院	昭和 54 年度-平成 30 年度
寺岡　隆	学部・院	平成 5-10 年度
茅原　正	学部・院	昭和 59-61 年度，平成 2-30 年度
永田　陽子	学部・院	平成 8-在任中
藤田　博康	学部・院	平成 29-在任中
間島　英俊	学部	平成 11-30 年度
八巻　秀	学部・院	平成 20-在任中
加藤　博己	助手	平成 8-10 年度，平成 14-16 年度
北川　公路	助手	平成 11-13 年度
山岸　直基	助手	平成 17 年度
堀内　正彦	助手	平成 18-19 年度
堀　直人	助手	平成 20-22 年度
中村　道子	助手	平成 23 年度
佐藤　理晴	助手	平成 24-26 年度
久保　尚也	助手	平成 27-29 年度

科教員が増員となり，久保尚也先生が着任されることとなった。

このように本学科の 20 年の歴史は，学科設立初期に在職されていた茨木博子先生，小野浩一先生，谷口泰富先生，茅原正先生，永田陽子先生，間島英俊先生の６名の教員を中心に作られてきたといっても過言ではない。また，この 20 年間で８名の先生が，学科運営を支える専任助手として勤務された。この先生方は，20 年間の学科運営を支えてきた「縁の下の力持ち」といえよう。

3-2．非常勤講師

表５に平成 10 年度から平成 29 年度までの学部の心理学系科目を担当していただいた非常勤講師の氏名を，表６に大学院の科目を担当していただいた非常勤講師の氏名を記載する。平成 30 年度ご担当いただいた非常勤講師の氏名については本号の巻末の心理学研究室彙報にて確認いただきたい。

学科として独立した平成 10 年度から平成 29 年度まで，学部では 94 名，大学院では 32 名の先生方に本学学生の教育に力添えいただいた。

表４
学科主任・専攻主任一覧

年度	学科主任	専攻主任
平成 10 年度	小野　浩一	寺岡　隆
平成 11 年度	小野　浩一	寺岡　隆
平成 12 年度	小野　浩一	佐々木　雄二
平成 13 年度	谷口　泰富	小野　浩一
平成 14 年度	谷口　泰富	小野　浩一
平成 15 年度	茅原　正	谷口　泰富
平成 16 年度	茅原　正	谷口　泰富
平成 17 年度	間島　英俊	谷口　泰富
平成 18 年度	間島　英俊	谷口　泰富
平成 19 年度	茨木　博子	茅原　正
平成 20 年度	茨木　博子	茅原　正
平成 21 年度	永田　陽子	茨木　博子
平成 22 年度	永田　陽子	茨木　博子
平成 23 年度	永田　陽子	茅原　正
平成 24 年度	永田　陽子	茅原　正
平成 25 年度	八巻　秀	永田　陽子
平成 26 年度	八巻　秀	永田　陽子
平成 27 年度	鈴木　常元	八巻　秀
平成 28 年度	鈴木　常元	八巻　秀
平成 29 年度	鈴木　常元	八巻　秀

４．刊行物

「心理学研究室 30 年の歩み」が掲載された平成 10 年度は，本紀要を含め，４冊の刊行物が発行されていたようである。しかし現在では，「駒澤大学心理学論集」と「駒澤心理」の２冊が残るのみとなっている。この他の刊行物として，駒澤大学コミュニティ・ケア・センター（心理学専攻臨床心理学コースの実習施設兼，相談施設）で「駒澤大学心理臨床研究」が発行されている。

4-1．駒澤大学心理学論集

学科が独立した 1999 年より，心理学研究室の正規の論集として刊行されている。今号で 21 号となる。この心理学論集には，教員（専任，非常勤）の論文のほか，その年度に卒業する４年生の卒業論文の論題，修士課程の院生の修士論文の論題，さらに学部の各ゼミの集合写真や修士２年生の集合写真が掲載されている。そのため，毎年３月の卒業式に配布できるよう発刊スケジュールが組まれている。

表5
学部非常勤講師一覧

氏名	在職期間	氏名	在職期間
浅井　正昭	平成 11-12 年度	杉澤　武俊	平成 16-18 年度
薊　理津子	平成 26 年度	杉山　雅美	平成 20-29 年度
安藤　治	平成 20 年度	鈴木　順一	平成 11-26 年度
安藤　末廣	平成 17 年度	高井　秀明	平成 28-在任中
井垣　竹晴	平成 15 年度	高橋　鷹志	平成 12-14 年度
五十嵐　一枝	平成 26-29 年度	高橋　直	平成 26-27 年度
五十嵐　靖博	平成 26-27 年度	高橋　誠	平成 11-15 年度
石岡　綾香	平成 25-在任中	高橋　良博	平成 11-13 年度，平成 15-在任中
井出　恵	平成 11 年度	谷木　龍男	平成 22-25 年度
稲富　正治	平成 14-29 年度	デワラジャ, L.D.	平成 11-16 年度
稲松　信雄	平成 12-25 年度	栃倉　稔	平成 19-21 年度
入江　尚子	平成 22-在任中	中里　克治	平成 11-19 年度
植田　恵	平成 20-24 年度	中澤　世都子	平成 21-在任中
宇佐美　慧	平成 21-23 年度	中塚　健太郎	平成 22-25 年度
大野　幸子	平成 26-27 年度	仲渡　江美	平成 17-20 年度
大野　隆造	平成 15-19 年度	中丸　茂	平成 11-21 年度
大谷　華	平成 22-在任中	中村　道子	平成 21-22 年度
大塚　秀治	平成 11-22 年度	永房　典之	平成 24-29 年度
奥村　太一	平成 19-20 年度	名取　志保	平成 15-20 年度
小野　公一	平成 17-19 年度	西出　和彦	平成 20-21 年度
小野　洋平	平成 23-在任中	西田　順造	平成 19-21 年度
葛西　賢太	平成 15 年度，平成 17-22 年度	西松　能子	平成 13 年度
加藤　博己	平成 12-13 年度，平成 17-在任中	西脇　淳	平成 13-20 年度
軽部　幸浩	平成 11-在任中	萩原　滋	平成 11-24 年度
川嶋　新二	平成 29-在任中	長谷川　茂	平成 24-29 年度
北川　公路	平成 15-17 年度	林　久美	平成 22-在任中
楠本　恭久	平成 26-27 年度	針金　まゆみ	平成 25-在任中
國則　裕基子	平成 28 年度	深堀　友覚	平成 18-25 年度
久保　尚也	平成 22-26 年度	藤田　主一	平成 26-27 年度
久保田　圭作	平成 11-15 年度	細江　達郎	平成 15-16 年度
熊坂　敬典	平成 19 年度	堀　耕治	平成 23-29 年度
倉住　友恵	平成 24-27 年度	堀　直人	平成 23-在任中
桑原　正修	平成 20-在任中	堀内　正彦	平成 11-在任中
黄（コウ）　珉淑（ミンシュク）	平成 14-19 年度	本間　美智子	平成 21 年度
幸島　和子	平成 11-20 年度	牧野　晋	平成 11-20 年度
河本　愛子	平成 28-30 年度	松林　尚志	平成 21 年度
腰冢　由子	平成 27-在任中	丸居　飛鳥	平成 23-27 年度
小室　央允	平成 21-29 年度	丸茂　ひろみ	平成 22 年度
坂入　洋右	平成 22-25 年度	箕口　雅博	平成 28-在任中
櫻井　一彦	平成 12-13 年度	森阪　匡通	平成 21 年度
佐藤　尚代	平成 13-在任中	森山　敏文	平成 11-12 年度
佐藤　理晴	平成 12-23 年度，平成 27-在任中	山口　一	平成 21 年度
佐藤　方哉	平成 11-14 年度	矢代　龍雄	平成 20-21 年度
讃岐　真佐子	平成 11-17 年度	山岸　直基	平成 11-16，25-在任中
澤田　匡人	平成 19-29 年度	山田　剛史	平成 12-15 年度
島田　直子	平成 28-在任中	横山　剛	平成 11-18 年度
申（シン）　紅仙（ホンソン）	平成 20-21 年度	吉川　麻衣子	平成 22-28 年度

表６
大学院非常勤講師一覧

氏名	在職期間	氏名	在職期間
五十嵐　一枝	平成 26-29 年度	永房　典之	平成 26-28 年度
五十嵐　靖博	平成 28 年度	中村　光	平成 26-29 年度
石垣　琢磨	平成 20-26 年度	沼　初枝	平成 27-29 年度
厳島　行雄	平成 18 年度	萩原　滋	平成 13-24 年度
井出　恵	平成 12 年度	花沢　成一	平成 11-12 年度
今井　久登	平成 28-29 年度	細田　千尋	平成 26-27 年度
内海　光朝	平成 11 年度，平成 13-14 年度	箕口　雅博	平成 29-在任中
長田　久雄	平成 13-15 年度，平成 17-19 年度	妙木　浩之	平成 22-23 年度
長田　由紀子	平成 20-27 年度	森　俊夫	平成 14-18 年度
河内　十郎	平成 20 年度	森山　敏文	平成 14-16 年度
幸田　るみ子	平成 15-19 年度	山岸　直基	平成 23-24 年度，平成 27 年度，平成 29 年度
古賀　義亮	平成 11-17 年度	山際　勇一郎	平成 24-27 年度
黒沢　幸子	平成 19-在任中	山本　晴義	平成 14-16 年度，平成 25 年度
佐藤　隆夫	平成 21-27 年度	山本　真理子	平成 13-14 年度
菅沼　憲治	平成 13-16 年度	土谷　良巳	平成 17 年度
中野　明徳	平成 14-26 年度		
中野　隆史	平成 14-16 年度		

4-2．駒澤心理

駒澤大学大学院心理学院生会が発行している刊行物である。本学専攻の学生の研究発表の場として編集され，毎号数編の論文を掲載している。掲載論文は現役の院生のものが多いが，OB・OG の論文も掲載されることがある。現在，25 号が発刊されている。

4-3．駒澤大学心理臨床研究

本学コミュニティ・ケア・センターが発行している刊行物であり，心理臨床活動の水準を向上させることを目的としている。研究論文だけでなく，実習の実施内容の報告や，臨床心理学コースの院生の修士論文の要旨などが掲載されている。現在 17 号までが発刊されている。

５．教育課程の変遷

5-1．心理学科

5-1-1．カリキュラムの変遷　カリキュラムについては，学科が独立してからの 15 年間と，カリキュラムが大きく改定された 2014 年度（平成 26 年度），2018 年度（平成 30 年度）についてみていく。

学科独立からの 15 年間は，基本的に科独立時に作成されたカリキュラムが維持された。この 15 年間において変化があったのは，2011 年度（平成 23 年度）から 2013 年度（平成 25 年度）までの間に３科目が新規開講されたことである。新たに開講されたのは，『心理学入門』，『キャリア教育入門』，『心理実践実習』の３科目である（表７）。心理学入門は各専任教員の専門の立場から心理学の魅力について講義するリレー形式の科目で，キャリア教育入門は，講義やさまざまな演習を通じて社会人として必要とされるスキルやキャリア理論について学ぶ科目である。心理実践実習は先の２科目と異なり，国立成育医療研究センターや青梅成木台病院などの学内外の実習施設での実習を中心とした科目であり，国家資格の養成カリキュラムを念頭に設置された科目であった。

カリキュラムの大幅な改定がなされた 2014 年度（平成 26 年度）の改定内容は，次の２つであった（表８）。１つ目は，これまで通年科目として設置されていた心理学実験演習や心理検査法などの主要な選択科目が，前期開講科目と後期開講科目に分割されたことである。この半期化は，大学が各科目の半期化を推進した影響を受けての改定であった。心理学実験演習については，実験と調査の研究プロセスを学生に体験させるため，実験実習科目と調査実習科目の両方を半期ずつ学生に履修させる方針がこの時よりとられた。また，開講時限等により履修者数が大きく異なっていたことが問題視されたことを受け，心理学実験演習の各科目に定員を設け，定員を超える希望者がいた場合，抽選によって履修者を決定するシステムが導

表7
平成 10 年度から平成 25 年度までの学部カリキュラム

	履修学年	科目名			
必修科目	1	心理学概論	心理統計学	コンピュータ実習	
	2	心理学基礎実験	心理学研究法		
	3	禅心理学			
	4	演習			
選択必修	1・2	学習心理学	社会心理学	人格心理学	生理心理学
		認知心理学	発達心理学	臨床心理学	
	3	心理学実験演習Ⅰ	心理学実験演習Ⅱ	心理学実験演習Ⅲ	心理学実験演習Ⅳ
		心理学実験演習Ⅴ	心理学実験演習Ⅵ	心理学実験演習Ⅶ	
選択科目	1	心理学入門 （平成 23 年度より）	キャリア教育入門 （平成 24 年度より）		
	2・3・4	環境心理学	児童心理学	産業心理学	老年心理学
		宗教心理学	健康心理学	比較行動学	精神医学
		心理学特講Ⅰ	心理学特講Ⅱ	心理学特講義Ⅲ	カウンセリング
		心理検査法Ⅰ	心理検査法Ⅱ	情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ
	3	心理学特殊演習			
	4	心理実践実習 （平成 25 年度より）			

表8
平成 26 年度学部カリキュラム

	履修学年	科目名			
必修科目	1	心理学概論	心理統計学	コンピュータ実習	
	2	心理学基礎実験	心理学研究法		
	3	禅心理学			
	4	演習			
選択必修	1・2	学習心理学	社会心理学	人格心理学	生理心理学
		認知心理学	発達心理学	臨床心理学	
	3	心理学実験演習ⅠA	心理学実験演習ⅠB	心理学実験演習ⅡA	心理学実験演習ⅡB
		心理学実験演習ⅢA	心理学実験演習ⅢB	心理学実験演習ⅣA	心理学実験演習ⅣB
		心理学実験演習ⅤA	心理学実験演習ⅤB	心理学実験演習ⅥA	心理学実験演習ⅥB
		心理学実験演習ⅦA	心理学実験演習ⅦB		
選択科目	1	心理学入門	キャリア教育入門		
	2・3・4	環境心理学	スポーツ心理学	児童心理学	発達臨床心理学
		産業心理学	犯罪心理学	老年心理学	青年心理学
		宗教心理学	健康心理学	比較行動学	精神医学
		心理学特講ⅠA	心理学特講ⅠB	心理学特講ⅡA	心理学特講ⅡB
		心理学特講義ⅢA	心理学特講義ⅢB	心理検査法ⅠA	心理検査法ⅠB
		心理検査法ⅡA	心理検査法ⅡB	カウンセリング	情報処理ⅠA
		情報処理ⅠB	情報処理ⅡA	情報処理ⅡB	
	3	心理学特殊演習			
	4	心理実践実習			

表9
平成 30 年度学部カリキュラム

	履修学年	科目名			
必修科目	1	心理学概論Ⅰ コンピュータ実習Ⅰ	心理学概論Ⅱ コンピュータ実習Ⅱ	心理統計法Ⅰ	心理統計法Ⅱ
	2	心理学実験Ⅰ 禅心理学Ⅰ	心理学実験Ⅱ	心理学研究法Ⅰ	心理学研究法Ⅱ
	4	演習			
選択必修	1・2	知覚・認知心理学(知覚) 学習・言語心理学(学習) 神経・生理心理学 教育・学校心理学	知覚・認知心理学(認知) 学習・言語心理学(言語) 生理心理学特講	感情・人格心理学 社会･集団･家族心理学(家族) 臨床心理学概論	人格心理学特講 社会･集団･家族心理学(社会･集団) 発達心理学概論
	3	心理学実験演習ⅠA 心理学実験演習ⅢA 心理学実験演習ⅤA 心理学実験演習ⅦA	心理学実験演習ⅠB 心理学実験演習ⅢB 心理学実験演習ⅤB 心理学実験演習ⅦB	心理学実験演習ⅡA 心理学実験演習ⅣA 心理学実験演習ⅥA	心理学実験演習ⅡB 心理学実験演習ⅣB 心理学実験演習ⅥB
選択科目	1	心理学入門	キャリア教育入門		
	2	禅心理学Ⅱ			
	2・3・4	公認心理師の職責 心理学的支援法 障害者･障害児心理学 司法・犯罪心理学 青年心理学 心理学特講ⅠA 心理学特講義ⅢA 心理調査法 情報処理ⅡB	心理検査法A 精神疾患とその治療 比較行動学特講 環境心理学 児童心理学 心理学特講ⅠB 心理学特講義ⅢB 情報処理ⅠA	心理検査法B 人体の構造と機能及び疾病 宗教心理学特講 スポーツ心理学 発達臨床心理学 心理学特講ⅡA 福祉心理学 情報処理ⅠB	カウンセリング概論 健康・医療心理学 産業・組織心理学 老年心理学 心理的アセスメント 心理学特講ⅡB 関係行政論 情報処理ⅡA
	3	心理学特殊演習Ⅰ	心理学特殊演習Ⅱ	心理演習（臨床）	
	4	心理実習（臨床）			

表 10
学部卒業生累計

心理学科　平成 14 年度～平成 29 年度　卒業生数一覧

卒業年度	男	女	総計	備　考
10	28	40	68	文学部社会学科心理学コース
11	48	55	103	文学部社会学科心理学コース
12	41	73	114	文学部社会学科心理学コース
13	33	43	76	文学部社会学科心理学コース
14	29	32	61	
15	18	47	65	
16	43	36	79	
17	46	52	98	
18	28	62	90	
19	42	63	105	
20	46	54	100	
21	34	60	94	
22	38	70	108	
23	34	70	104	
24	27	56	83	
25	33	49	82	
26	39	47	86	
27	28	62	90	
28	30	52	82	
29	39	45	84	
総計	704	1068	1772	

入された。２つ目の改定内容は，スポーツ心理学や発達臨床心理学など，細分化された領域の心理学科目の開講であるが，この改変も心理実践実習と同様，心理職の国家資格化を念頭においたものであった。

2018 年度（平成 30 年度）の改定は，国家資格である公認心理師の養成カリキュラムに対応する必要があるため，大幅なものとなった（表９）。科目名も公認心理師養成カリキュラムに対応したものになると同時に，新たな科目も数多く開講され，前年度までのカリキュラムと比較すると大きく変わった印象をもつほどである。また，必修科目についても４年次の演習を除き，すべて半期化された。さらに学科独立以来３年次必修科目として開講されていた禅心理学が，２年次前期の半期必修科目として開講されることになった。

5-1-2．学科卒業生数　学科独立から 20 年を迎える本学科であるが，これまでどのくらいの卒業生を輩出したのだろうか。平成 10 年度から平成 29 年度までの卒業生数を表 10 に示す（平成 10 年度から平成 13 年度までは社会学科心理学コースに入学した学生になる）。本学科を卒業した学生の総数は約 1800 名近くに上る。また心理学科は一般的に女性が多いというイメージを持たれている。実際に卒業生のうち６割が女性であった。

5-2．大学院心理学専攻

5-2-1．大学院カリキュラムの変遷　大学院修士課程のカリキュラムの変遷は，臨床心理学コースの科目充実化の歴史ともいえる。

修士課程のカリキュラムの変遷として，まず特筆すべきものは，コース制をとる前と後で大きく異なっていることであろう。心理学コースと臨床心理学コースに分かれる前の 2000 年度（平成 12 年度）のカリキュラム（表 11）については，基礎，臨床分け隔てなく，すべての科目の履修が可能となっていた。しかし，臨床心理士第１種指定大学院として認められた平成 13 年度には基礎に特化した心理学コースと，臨床心理学に特化した臨床心理学コースのコース制が採用され，基礎と臨床の科目の区分けがなされることとなった（表 12-1，12-2）。とはいえ，コース制が導入された初年度のカリキュラムは，心理学コースでも「臨床心理査定演習」が履修可能になっており，コース制が導入されたものの，2001 年度（平成 13 年度）の段階ではまだ完全な分離には至っていなかったことが窺える。

2002 年度（平成 14 年度）から 2014 年度（平成 26 年度）までは，カリキュラムの大きな改変はされていないものの，専任教員の入れ変わり等の関係で少しずつ見直しがなされた。代表的なカリキュラム例として 2002 年度（平成 14 年度）と 2008 年度（平成 20 年度）のカリキュラムをそれ

表 11
2000 年度（平成 12 年度）修士課程カリキュラム

	単位数	科目名	担当教員
演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
	4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
	4	生理心理学研究	谷口　泰富
	4	臨床心理学研究	佐々木　雄二
講義	4	行動分析学研究（１）※	小野　浩一
	4	行動分析学研究（２）※	小野　浩一
	4	臨床心理査定研究（１）	内海　光朝
	4	臨床心理査定研究（２）	菅沼　憲治
	4	禅心理学研究	茅原　正
	4	心理情報処理研究	古賀　義亮
	4	生理心理学研究（１）※	谷口　泰富
	4	生理心理学研究（２）※	谷口　泰富
	4	臨床心理事例研究（１）※	佐々木　雄二
	4	臨床心理事例研究（２）※	佐々木　雄二

※隔年開講

表 12-1

2001 年度（平成 13 年度）修士課程心理学コースカリキュラム

		単位数	科目名	担当者
選択科目	講義	4	行動分析学研究（1）※	小野　浩一
		4	行動分析学研究（2）※	小野　浩一
		4	生理心理学研究（1）※	谷口　泰富
		4	生理心理学研究（2）※	谷口　泰富
		4	禅心理学研究（1）※	茅原　正
		4	禅心理学研究（2）※	茅原　正
	演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
		4	生理心理学研究	谷口　泰富
		4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
		4	認知心理学研究	永田　陽子
		4	臨床心理学研究（1）	佐々木雄二
		4	臨床心理学研究（2）	永田　陽子
		4	臨床心理学研究（3）	茨木　博子
選択科目	講義	4	家族心理学特論	菅沼　憲治
		4	社会心理学研究	萩原　滋
		4	精神医学特論	内海　光朝
		4	心理統計法特論	古賀　義亮
		4	臨床心理学特論	佐々木雄二
		4	臨床心理面接特論	茨木　博子
		4	臨床心理査定演習	永田　陽子
		4	コミュニティ心理学特論	山本　真理子
		4	老年心理学特論	長田　久雄
		4	心理療法特論	佐々木　雄二

※隔年開講

表 12-2

2001 年度（平成 13 年度）修士課程臨床心理学コースカリキュラム

	履修学年		単位数	科目名	担当者
必修科目	1	講義	4	臨床心理学特論	佐々木雄二
	1		4	臨床心理面接特論	茨木　博子
	1	演習	4	臨床心理査定演習	永田　陽子
	1	実習	2	臨床心理基礎実習	茨木・永田
	2	実習	2	臨床心理実習	佐々木雄二 茨木　博子 永田　陽子 中野　隆史 森山　敏文 内海　光朝 山本　晴義
選択必修		講義	4	行動分析学研究(1)※	小野　浩一
			4	行動分析学研究(2)※	小野　浩一
			4	生理心理学研究(1)※	谷口　泰富
			4	生理心理学研究(2)※	谷口　泰富
			4	禅心理学研究(1)※	茅原　正
			4	禅心理学研究(2)※	茅原　正
		演習	4	臨床心理学研究(1)	佐々木雄二
			4	臨床心理学研究(2)	永田　陽子
			4	臨床心理学研究(3)	茨木　博子

※隔年開講

	履修学年		単位数	科目名	担当者
選択		演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
			4	生理心理学研究	谷口　泰富
			4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
			4	認知心理学研究	永田　陽子
		講義	4	家族心理学特論	菅沼　憲治
			4	社会心理学研究	萩原　滋
			4	精神医学特論	内海　光朝
			4	心理統計法特論	古賀　義亮
			4	コミュニティ心理学特論	山本　真理子
			4	老年心理学特論	長田　久雄
			4	心理療法特論	佐々木　雄二

表 13-1

2002 年度（平成 14 年度）修士課程心理学コースカリキュラム

		単位数	科目名	担当者
選択必修	講義	4	行動分析学研究（1）※	小野　浩一
		4	行動分析学研究（2）※	小野　浩一
		4	生理心理学研究（1）※	谷口　泰富
		4	生理心理学研究（2）※	谷口　泰富
		4	禅心理学研究（1）※	茅原　正
		4	禅心理学研究（2）※	茅原　正
	演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
		4	生理心理学研究	谷口　泰富
		4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
		4	認知心理学研究	永田　陽子
		4	臨床心理学研究（1）	佐々木雄二
		4	臨床心理学研究（2）	永田　陽子
		4	臨床心理学研究（3）	茨木　博子
		4	臨床心理学研究（4）	勝俣　暎史
選択科目	講義	2	家族心理学特論（前期）	菅沼　憲治
		2	社会心理学研究（後期）	萩原　滋
		2	精神医学特論（前期）	内海　光朝
		2	心理統計法特論（後期）	古賀　義亮
		2	コミュニティ心理学特論(前期)	山本　真理子
		2	老年心理学特論（後期）	長田　久雄
		2	心理療法特論（後期）	佐々木　雄二
		2	学校臨床心理学特論（前期）	森　俊夫

※隔年開講

表 13-2

2002 年度（平成 14 年度）修士課程臨床心理学コースカリキュラム

	履修学年		単位数	科目名	担当者
必修科目	1	講義	4	臨床心理学特論	勝俣　暎史
	1		4	臨床心理面接特論	茨木　博子
	1	演習	4	臨床心理査定演習	永田　陽子
	1	実習	2	臨床心理基礎実習	茨木・永田
	2	実習	2	臨床心理実習	勝俣　暎史 佐々木雄二 茨木　博子 永田　陽子 中野　隆史 森山　敏文 内海　光朝 山本　晴義
選択必修		講義	4	行動分析学研究(1)※	小野　浩一
			4	行動分析学研究(2)※	小野　浩一
			4	生理心理学研究(1)※	谷口　泰富
			4	生理心理学研究(2)※	谷口　泰富
			4	禅心理学研究(1)※	茅原　正
			4	禅心理学研究(2)※	茅原　正
		演習	4	臨床心理学研究(1)	佐々木雄二
			4	臨床心理学研究(2)	永田　陽子
			4	臨床心理学研究(3)	茨木　博子
			4	臨床心理学研究(4)	勝俣　暎史

※隔年開講

	履修学年		単位数	科目名	担当者
選択		演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
			4	生理心理学研究	谷口　泰富
			4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
			4	認知心理学研究	永田　陽子
		講義	2	家族心理学特論(前期)	菅沼　憲治
			2	社会心理学研究(後期)	萩原　滋
			2	精神医学特論(前期)	内海　光朝
			2	心理統計法特論(後期)	古賀　義亮
			2	コミュニティ心理学特論(前期)	山本　真理子
			2	老年心理学特論(後期)	長田　久雄
			2	心理療法特論(後期)	佐々木　雄二
			2	学校臨床心理学特論(前期)	森　俊夫
			2	投影法特論(前期)	中野　明徳 茨木　博子

表 14-1

2008 年度（平成 20 年度）修士課程心理学コースカリキュラム

		単位数	科目名	担当者
選択必修	講義	4	行動分析学研究（1）※	小野　浩一
		4	行動分析学研究（2）※	小野　浩一
		4	生理心理学研究（1）※	谷口　泰富
		4	生理心理学研究（2）※	谷口　泰富
		4	禅心理学研究（1）※	茅原　正
		4	禅心理学研究（2）※	茅原　正
	演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
		4	生理心理学研究	谷口　泰富
		4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
		4	認知心理学研究	永田　陽子
選択科目	講義	2	家族心理学特論（前期）	八巻　秀
		2	社会心理学研究（後期）	萩原　滋
		2	精神医学特論（前期）	石垣　琢磨
		2	老年心理学特論（後期）	長田　由紀子
		2	コミュニティ心理学特論(前期)	山本　真理子
		2	心理療法特論（後期）	鈴木　常元
		2	学校臨床心理学特論（前期）	黒沢　幸子
		2	心理学特論（1）（前期）	大浜　幾子
		2	心理学特論（2）（前期）	河内　十郎

※隔年開講

表 14-2

2002 年度（平成 14 年度）修士課程臨床心理学コースカリキュラム

	履修学年		履修単位数	単位数	科目名	担当者
必修科目	1	講義	4	4	臨床心理学特論	茨木　博子
	1		4	4	臨床心理面接特論	八巻　秀
	1	演習	4	4	臨床心理査定演習	永田　陽子 有光　興記
	1	実習	2	2	臨床心理基礎実習	茨木･永田･八巻･有光･鈴木
	2	実習	2	2	臨床心理実習	茨木･永田･八巻･有光･鈴木
選択必修		講義	4	4	行動分析学研究(1)※	小野　浩一
				4	行動分析学研究(2)※	小野　浩一
			4	4	生理心理学研究(1)※	谷口　泰富
				4	生理心理学研究(2)※	谷口　泰富
			4	4	禅心理学研究(1)※	茅原　正
				4	禅心理学研究(2)※	茅原　正
		演習	8	4	臨床心理学研究(1)	永田　陽子
				4	臨床心理学研究(2)	鈴木　常元
				4	臨床心理学研究(3)	茨木　博子
				4	臨床心理学研究(4)	八巻　秀
				4	臨床心理学研究(5)	有光　興記

※隔年開講

	履修学年		単位数	科目名	担当者
選択		講義	4	臨床心理事例研究(1)	茨木　博子
			4	臨床心理事例研究(1)	永田　陽子
			4	臨床心理事例研究(1)	有光　興記
			4	臨床心理事例研究(1)	鈴木　常元
		演習	4	認知心理学研究	永田　陽子
		講義	2	家族心理学特論(前期)	八巻　秀
			2	社会心理学研究(後期)	萩原　滋
			2	精神医学特論(前期)	石垣　琢磨
			2	老年心理学特論(後期)	長田　由紀子
			2	心理療法特論(後期)	鈴木　常元
			2	学校臨床心理学特論(前期)	黒沢　幸子
			2	心理学特論(1)(前期)	大浜　幾子
			2	心理学特論(2)(前期)	河内　十郎
			2	投影法特論(前期)	中野　明徳 茨木　博子
			2	臨床心理学研究法特論(後期)	有光　興記

表 15-1

2015 年度（平成 27 年度）修士課程心理学コースカリキュラム

		単位数	科目名	担当者
選択必修	講義	4	行動分析学研究（1）※	小野　浩一
		4	行動分析学研究（2）※	小野　浩一 山岸　直基
		4	生理心理学研究（1）※	谷口　泰富
		4	生理心理学研究（2）※	谷口　泰富
		4	禅心理学研究（1）※	茅原　正
		4	禅心理学研究（2）※	茅原　正
	演習	4	行動分析学研究	小野　浩一
		4	生理心理学研究	谷口　泰富
		4	禅心理学研究Ⅰ	茅原　正
		4	認知心理学研究	永田　陽子
選択科目	講義	2	家族心理学特論（前期）	八巻　秀
		2	社会心理学研究（後期）	永房　典之
		2	精神医学特論（前期）	中村　光
		2	老年心理学特論（後期）	長田　由紀子
		2	心理学特論（1）（前期）	山際　勇一郎
		2	心理学特論（2）（前期）	五十嵐　一枝
		2	認知心理学研究（1）（前期）	佐藤　隆夫
		2	認知心理学研究（2）（後期）	細田　千尋

※隔年開講

表 15-2

2015 年度（平成 27 年度）修士課程臨床心理学コースカリキュラム

	履修学年		単位数	科目名	担当者
必修科目	1	講義	4	臨床心理学特論	茨木　博子
	1		4	臨床心理面接特論	八巻　秀 鈴木　常元
	1	演習	4	臨床心理査定演習	永田　陽子 有光　興記
	1	実習	2	臨床心理基礎実習	茨木･永田･八巻･ 有光･鈴木
	2		2	臨床心理実習	茨木･永田･八巻･ 有光･鈴木
選択必修		講義	4	行動分析学研究(1)※	小野　浩一
			4	行動分析学研究(2)※	小野　浩一 山岸　直基
			4	生理心理学研究(1)※	谷口　泰富
			4	生理心理学研究(2)※	谷口　泰富
			4	禅心理学研究(1)※	茅原　正
			4	禅心理学研究(2)※	茅原　正
		演習	4	臨床心理学研究(1)	永田　陽子
			4	臨床心理学研究(2)	鈴木　常元
			4	臨床心理学研究(3)	茨木　博子
			4	臨床心理学研究(4)	八巻　秀
			4	臨床心理学研究(5)	有光　興記
選択		講義	4	臨床心理事例研究(1)	茨木　博子
			4	臨床心理事例研究(1)	永田　陽子
			4	臨床心理事例研究(1)	有光　興記
			4	臨床心理事例研究(1)	鈴木　常元
			4	臨床心理事例研究(2)	茨木　博子

	履修学年		単位数	科目名	担当者
選択		講義	4	臨床心理事例研究(2)	永田　陽子
			4	臨床心理事例研究(2)	有光　興記
			4	臨床心理事例研究(2)	鈴木　常元
		実習	2	病院臨床心理実習(1)-1年-	茨木　博子
			2	病院臨床心理実習(2)-2年-	茨木･永田･八巻･ 有光･鈴木
			1	発達臨床心理実習-2年-(前期)	永田　陽子
		演習	4	認知心理学研究	永田　陽子
		講義	2	家族心理学特論(前期)	八巻　秀
			2	社会心理学研究(後期)	永房　典之
			2	精神医学特論(前期)	中村　光
			2	老年心理学特論(後期)	長田　由紀子
			2	心理療法特論(後期)	鈴木　常元
			2	学校臨床心理学特論(前期)	黒沢　幸子
			2	心理学特論(1)(前期)	山際　勇一郎
			2	心理学特論(2)(前期)	五十嵐　一枝
			2	投影法特論(前期)	茨木　博子
			2	投影法特論(後期)	沼　初枝
			2	臨床心理学研究法特論(後期)	有光　興記
			2	認知心理学研究(1)(前期)	佐藤　隆夫
			2	認知心理学研究(2)(後期)	細田　千尋

※隔年開講

表 16-1

2018 年度（平成 30 年度）修士課程心理学コースカリキュラム

		単位数	科目名	担当者
選択必修	講義	2	行動分析学研究（1）a ※	久保　尚也
		2	行動分析学研究（1）b ※	久保　尚也
		2	行動分析学研究（2）a ※	久保　尚也
		2	行動分析学研究（2）b ※	久保　尚也
		2	生理心理学研究（1）a ※	谷口　泰富
		2	生理心理学研究（1）b ※	谷口　泰富
		2	生理心理学研究（2）a ※	谷口　泰富
		2	生理心理学研究（2）b ※	谷口　泰富
		2	禅心理学研究（1）a ※	茅原　正
		2	禅心理学研究（1）b ※	茅原　正
		2	禅心理学研究（2）a ※	茅原　正
		2	禅心理学研究（2）b ※	茅原　正
	演習	2	生理心理学研究 a	谷口　泰富
		2	生理心理学研究 b	谷口　泰富
		2	禅心理学研究Ⅰ a	茅原　正
		2	禅心理学研究Ⅰ b	茅原　正
		2	認知心理学研究 a	永田　陽子
		2	認知心理学研究 b	永田　陽子
選択科目	講義	2	保健医療分野に関する理論と支援の展開	中村　光
		2	福祉分野に関する理論と支援の展開	石井　正子
		2	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	藤田　博康
		2	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	本多ハワード素子
		2	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	八巻　秀

※隔年開講

表 16-2

2018 年度（平成 30 年度）修士課程臨床心理学コースカリキュラム

	履修学年		単位数	科目名	担当者
必修科目	1	講義	2	臨床心理学特論 a	茨木　博子
			2	臨床心理学特論 b	藤田　博康
			2	臨床心理面接特論	八巻　秀
			2	心理的アセスメントに関する理論と実践	永田　陽子
		演習	2	臨床心理査定演習	遠藤　歩
		実習	2	臨床心理基礎実習	鈴木・茨木・永田・八巻・藤田・遠藤
			1	心理実践実習（学内実習）Ⅰ	鈴木・茨木・永田・八巻・藤田・遠藤
			1	心理実践実習（保健医療）（1）	永田・茨木・鈴木・八巻・藤田・遠藤
	2	実習	1	心理実践実習（学内実習）Ⅱ a	永田・茨木・鈴木・八巻・藤田・遠藤
			1	心理実践実習（学内実習）Ⅱ b	永田・茨木・鈴木・八巻・藤田・遠藤
			1	心理実践実習（保健医療）（2）	八巻・茨木・鈴木・永田・藤田・遠藤
			1	心理実践実習（福祉・司法・産業・労働）	遠藤・茨木・鈴木・永田・八巻・藤田
			1	心理実践実習（教育）	藤田・茨木・鈴木・永田・八巻・遠藤
選択必修		講義	2	行動分析学研究(1)a ※	久保　尚也
			2	行動分析学研究(1)b ※	久保　尚也
			2	行動分析学研究(2)a ※	久保　尚也
			2	行動分析学研究(2)b ※	久保　尚也
			2	生理心理学研究(1)a ※	谷口　泰富
			2	生理心理学研究(1)b ※	谷口　泰富
			2	生理心理学研究(2)a ※	谷口　泰富
			2	生理心理学研究(2)b ※	谷口　泰富
			2	禅心理学研究(1)a ※	茅原　正
			2	禅心理学研究(1)b ※	茅原　正
			2	禅心理学研究(2)a ※	茅原　正
			2	禅心理学研究(2)b ※	茅原　正
		実習	2	心理実践実習（事例研究）（1）	茨木・遠藤・鈴木・永田・藤田・八巻
		演習	2	臨床心理学研究(1)a	永田　陽子
			2	臨床心理学研究(1)b	永田　陽子
			2	臨床心理学研究(2)a	鈴木　常元
			2	臨床心理学研究(2)b	鈴木　常元
			2	臨床心理学研究(3)a	茨木　博子
			2	臨床心理学研究(3)b	茨木　博子
			2	臨床心理学研究(4)a	八巻　秀
			2	臨床心理学研究(4)b	八巻　秀
			2	臨床心理学研究(5)a	藤田　博康
選択		講義	2	保健医療分野に関する理論と支援の展開	中村　光
			2	教育分野に関する理論と支援の展開	黒沢　幸子
			2	福祉分野に関する理論と支援の展開	石井　正子
			2	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	藤田　博康
			2	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	本多ハワード素子
			2	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	八巻　秀
			2	心の教育に関する理論と実践	箕口　雅博
			2	投影法特論 a	茨木　博子
			2	投影法特論 b	沼　初枝

※隔年開講

表 17
2000 年度（平成 12 年度）博士後期課程カリキュラム

博士後期課程

科目名	担当者
心理学特殊研究Ⅰ	佐々木雄二
心理学特殊研究Ⅲ	小野　浩一
心理学特殊研究Ⅳ	谷口　泰富
心理学特殊研究Ⅴ	茅原　正

表 18
2008 年度（平成 20 年度）博士後期課程カリキュラム

博士後期課程

科目名	単位数	担当者	科目名	単位数	担当者
心理学特殊研究Ⅲ 心理学研究指導Ⅲ	4	小野　浩一	心理学特殊研究Ⅵ 心理学研究指導Ⅵ	4	茨木　博子
心理学特殊研究Ⅳ 心理学研究指導Ⅳ	4	谷口　泰富	心理学特殊研究Ⅶ 心理学研究指導Ⅶ	4	永田　陽子
心理学特殊研究Ⅴ 心理学研究指導Ⅴ	4	茅原　正			

表 19
研究室開室から平成 29 年度までの博士後期課程進学者一覧

期	氏　名	期	氏　名	期	氏　名
1	篠原　英壽	19	軽部　幸浩	31	田村　英恵
2	小野　浩一	20	雨宮　一洋	31	名取　志保
3	竹内　明眸	20	北條　理史	32	深堀　友覚
4	安東　末廣	20	松尾　典義	34	武志　将
5	谷口　泰富	21	水田　茂久	34	佐瀬　竜一
5	間島　英俊	22	岡田　容子	35	堀　直人
6	土肥　正幸	23	齊藤　敢	35	杉山　雅美
7	武田　慎一	23	三木　淳子	35	本間　美智子
7	茅原　正	25	加藤　博己	35	桑原　正修
8	松浦　光和	25	北川　公路	36	中澤　世都子
8	松岡　洋一	26	堀内　正彦	37	小室　央允
10	及川　卓	26	山岸　直基	37	中村　道子
10	鈴木　順一	27	青塚　徹	38	久保　尚也
12	大塚　秀治	27	笹島　花織	39	小野　洋平
12	森山　敏文	27	佐藤　理晴	40	塩原　里佳
13	坂原　明	27	土田　昌司	40	正野　裕大
14	高橋　良博	29	荻原　稔江	41	田中　仁秀
15	板津　裕己	30	仲栄真　美奈子	41	石岡　綾香
16	中丸　茂	30	仲渡　江美	43	腰冢　由子
17	牧野　晋	30	高橋　忍		計 59 名

ぞれ表に示す（表 13-1，13-2，表 14-1，14-2）。その後，2015 年度（平成 27 年度）には，臨床心理学コースで一年次生を対象とする沖縄いずみ病院での「病院臨床心理実習（１）」，二年次生を対象とした「病院臨床心理実習（２）」，そしてコミュニティ・ケア・センターで実施する「発達検査臨床心理実習」が開講され，実習の充実化が図られた（表 15-1，15-2）。いずみ病院での実習，コミュニティ・ケア・センターでの発達検査については 2015 年度（平成 27 年度）以前からも実施されていたが，公式な実習科目として認められたのがこの 2015 年度（平成 27 年度）であった。

修士課程のカリキュラム，特に臨床心理学コースのカリキュラムについては，学部のカリキュラムと同様，2018 年度（平成 30 年度）に大幅な改変がなされた（表 16-1，16-2）。この改変も公認心理師養成カリキュラムに対応するためのものである。従来のカリキュラムとの違いは法令にて定められている科目名に変更したこと，また保健・医療分野だけでなく，福祉，司法，産業，教育分野と多岐に実習がわたり，これまで以上に実習時間が増えたことである。

大学院博士後期課程については，2000 年度（平成 12 年度）から 2009 年度（平成 19 年度）までは博士後期課程を担当できる教員が増えたこと以外に大きな変更はない（表 17）。しかし 2010 年（平成 20 年度）に博士後期課程にも単位制が導入され，従来の心理学研究指導だけでなく，講義科目

である心理学特殊研究が開講されることとなった（表 18）。

5-2-2．博士後期課程の進学者　研究室開室から 2017 年度（平成 29 年度）まで，計 59 名が本専攻の博士後期課程に進学している。進学者氏名を表 19 に示す。博士後期課程については腰冢由子氏以降，進学者がいない状況が続いている。

5-2-3．臨床心理士合格者数　2002 年度（平成 14 年度）から 2016 年度（平成 28 年度）までの臨床心理学コース修了生は計 142 名である。このうち臨床心理士試験の合格者数は実に 132 名に上り，臨床コース修了生の約 93%が合格している。

6．学位論文

6-1．修士論文

心理学専攻が本学大学院に設置されて以来，2017 年度（平成 29 年度）までに 338 本の修士論文が提出された。このうち 1999 年度（平成 11 年度）からこれまでに提出された論文数は 201 本にのぼる（表 20）。本専攻の伝統的な禅心理学の研究については 2010 年度に提出された修士論文以降，途絶えている。

6-2．博士論文

博士論文については，心理学研究室が開室されて以降，この 50 年間で 12 本の博士論文が提出された。表 21 に現在までに提出された論文のタイトルを示す。

表 20

修士論文論題一覧（1999 年度から 2017 年度提出）

修了年度	学生・氏名	修士論文題目	指導教員名
1999	織戸　智史	目撃証言に関する認知心理学的考察	寺岡　隆
	田村　英恵	皮膚温制御における呈示様式の効果　―言語型・視覚型の比較―	佐々木　雄二
	名取　志保	虚偽検出と瞬目反応	谷口　泰富
	山本　亮文	生体リズムと Vigilance Performance	谷口　泰富
2000	栗飯原なお子	抑うつ傾向が課題解決場面における認知に及ぼす影響	佐々木　雄二
	下田　晃子	大学生におけるアパシー傾向と進路選択に対する自己効力感	佐々木　雄二
	鈴木　晶子	メンタルフレンドに関する一試論―不登校児との関わり―	谷口　泰富
	関　臣孝	テレビアニメを用いた視聴覚融合におけるノイズの影響	小野　浩一
	半田　崇	異なる確実／不確実選択場面における選好　―不登校に対する選択行動からのアプロ―チ―	小野　浩一
	深堀　友覚	Type A 者の作業遂行予想時間評価に関する研究	茅原　正
2001	一ノ瀬　彩子	精神的健康と自己実現　―自己実現的人間に関する量的及び質的研究	谷口　泰富
	佐々木絵里加	雨中人物画とストレス対処法との関連	佐々木　雄二
	高橋　裕章	自律訓練法の指導法の違いによる訓練効果の比較検討　―面接法とＥメ―ルによる指導―	佐々木　雄二
	高山　泰子	気管支喘息患者における外傷体験を書き出すことによる症状軽減効果　―自我状態および基本的構えの変化と症状の改善と関連性―	佐々木　雄二
	朴　英美	選択性緘黙児の行動変容―M児の指導事例を通して―	小野　浩一
	牧田　光代	精神的健康に及ぼす「自己実現」の影響　―アサ―ション理論からの検討―	佐々木　雄二
	山田　暁子	課題固有の自己効力感に対するフィードバック効果の分析	谷口　泰富
2002	大川　惠巳	会話における終助詞「ね」の出現頻度に影響を及ぼす要因の検討	小野　浩一
	武志　将	暗示呼吸による状態不安軽減効果の検討	佐々木　雄二
	橋本　有紀	携帯電話の利用が若者の気分に及ぼす影響について	茨木　博子
	本田　義尚	分化強化手続き下の反応の変動性における参照範囲の効果	小野　浩一
	阿部　圭子	女子学生における神経性大食性に関する一研究　―自律訓練法による介入の試み―	佐々木　雄二
	梶山　亮	時間的展望の言語化に際して経験される感情と心理的適応との関連	佐々木　雄二
	木下　美紀	アルコール依存症者と健常者にみる共依存性と自己概念の関連について	永田　陽子
	佐瀬　竜一	自律訓練法における空間感覚練習が標準練習の効果，主観的体験に及ぼす影響	佐々木　雄二
	竹端　佑介	中年期の生きがい感についての一考察	茨木　博子
	西野　恵美子	摂食障害と家族関係（その２）　―SHG 活動における気づきの生起とその波及―	茨木　博子
	藤井　桃子	中学校の部活動が自己意識に及ぼす影響	茨木　博子
2003	堀　直人	ひらがなの形態的特徴が時間的結合錯誤に及ぼす影響	茅原　正
	松村　優直	視覚探索における global ／ local 情報処理	永田　陽子
	金枝　響子	痴呆性高齢者に対する記憶療法の効果	勝俣　暎史
	杉山　雅美	自己受容と自己認知および精神的健康との関係	佐々木　雄二
	田中　巧	血液透析者のセルフケアに影響を及ぼすソ―シャル・サポ―トの互恵性についての研究	茨木　博子
	堀之内　昭子	統合失調症患者の時間的展望	勝俣　暎史
	袰岩　弘起	青年期における対人恐怖心性の一研究　―ＴＡＴ物語と自己受容の視点から―	茨木　博子
	本間　美智子	集団精神療法におけるウォーミングアップの治療的意味についての一考察―アクションメソッドを介して―	茨木　博子
	清水　祐子	対人不安がパ―ソナルスペ―スに及ぼす影響　―対人恐怖心性からの検討―	永田　陽子

修了年度	学生・氏名	修士論文題目	指導教員名
2004	平岡　延英	自伝的記憶における視点とコ―ピングスタイルの関係	永田　陽子
	丸山　展生	記録内観の効果に関する研究　―人格変容の視点から―	佐々木　雄二
	小椋　雅史	運動の滑らかさがフラッシュ・ラグ効果に与える影響	永田　陽子
	種田　桂介	虚偽検出における音声変化の検討	谷口　泰富
	小沼　宏輔	シャイネスと社会的スキルが自己開示に与える影響　―対人関係の親密さと臨床的適用の検討―	永田　陽子
	川村　雅之	高校生の社会的スキルと共感性に関する研究　―ピア・サポート・トレーニングの実践から―	茨木　博子
	小泉　亮	軽度抑うつ者の自己関連的な情報の記憶について　―気分状態が果たす役割の検討―	永田　陽子
	児玉　健司	タイプＡがＡＴ習得の初期過程に及ぼす影響	佐々木　雄二
	清水　亜希子	自律訓練法の習得過程におけるセルフ・エフィカシーの変容	佐々木　雄二
	神　奈保子	青年期における完全主義と自己評価の関連　―精神的健康の視点から―	勝俣　暎史
	田中　多恵子	アルコール依存症者の時間的展望　―TPT（時間的展望テスト）を用いて―	勝俣　暎史
	中澤　世都子	高齢者の回想と心理的適応に関する一考察　―主観的幸福感と孤独感の視点から―	茨木　博子
	平野　正巳	一般性セルフ・エフィカシーが対処方略採用とストレス反応に及ぼす影響―制御可能性の変化する場面において―	勝俣　暎史
	吉沢　郁子	青年期における愛着スタイルとソーシャルサポート希求の関連についての一研究	茨木　博子
2005	猪俣　裕	顔写真の有無と評定者の特性が印象形成に及ぼす影響	茅原　正
	小室　央允	アルファー波フィードバック訓練における呼吸活動について	茅原　正
	副島　知佳	自己受容と対人信頼感が最早期記憶の想起に及ぼす影響	永田　陽子
	中村　道子	高齢者のスケジュールパフォーマンス　―教示性制御と環境感受性―	小野　浩一
	安東　桃子	青年期のアディクション傾向とコンピタンス　―アディクションに対する予防プログラム―	勝俣　暎史
	岩田　佳世	認知症に対する記憶療法	勝俣　暎史
	小林　愛美	冷え性に対する自律訓練法の効果	佐々木　雄二
	渡邉　史子	子どもの想像遊びが社会的スキルに及ぼす効果　―感情表出の制御との関連―	永田　陽子
	田頭　千鶴	大学生の孤独感に関する一研究　―孤独感類型と社会的スキルとの関連から―	茨木　博子
	中嶋　真美	ハーディネスとストレスの認知的評価　―コンピタンス心理学的視点からの分析―	勝俣　暎史
	中村　友美	不登校生徒への自律訓練法の影響　―ストレスマネジメント教育の視点から―	佐々木　雄二
	松下　健	対人不安と対人恐怖心性の類似性に関する検討　―シャイネスとの関連を通じて―	佐々木　雄二
	丸茂　ひろみ	自律訓練法の効果に及ぼすアロマセラピーの影響	佐々木　雄二
	山口　尚満	中学生の家族システム機能と学校適応感の関連	茨木　博子
	山本　正美	中学生における自己開示と信頼感の関連について	茨木　博子
2006	久保　尚也	ハトによる顔の年齢弁別	小野　浩一
	鈴木　将史	虚偽検出に関する基礎的研究　―音声指標による検討―	谷口　泰富
	野﨑　健一郎	損失場面におけるセルフコントロール選択	小野　浩一
	廣江　美恵	オートクリティックとしての“は”と“が”の制御変数の分析	小野　浩一
	郭　鑫	英語における“Ｌ”と“Ｒ”の音声弁別訓練と発声への転移	小野　浩一
	佐藤　静香	自律訓練法と心理的・身体的気づきとの関係	佐々木　雄二
	甘利　祐子	大学生におけるコンピタンスとレジリエンスの関係	勝俣　暎史
	桃谷　裕子	自律訓練法が調整型セルフ・コントロールと改良型セルフ・コントロールに及ぼす影響	佐々木　雄二

修了年度	学生・氏名	修士論文題目	指導教員名
2006	大森　幸	中学生における個人志向性・社会志向性と学校適応感との関連	茨木　博子
	岩沢　聖子	発達障害をもつ子どもに対する記憶療法　―小学生５，６年男児の例―	勝俣　暎史
	谷中　広明	社会不安に対する自律訓練法の効果	佐々木　雄二
	山本　康夫	職場ストレッサ―とハ―ディネスが抑うつ発生に及ぼす影響　―よりよい職場ストレスマネジメントのあり方を目指して―	勝俣　暎史
	染谷　洋輔	選択性緘黙児に対する記憶療法	勝俣　暎史
	稲田　亜希子	ストレスコーピングと時間的展望が Sense of Coherence に及ぼす影響	茨木　博子
	浦山　伸悟	呼吸法が喫煙行動に与える効果	佐々木　雄二
	大島　秀之	精神科外来患者における服薬認識とセルフ・エフィカシーの関連について	茨木　博子
2007	今関　仁智	多肢選択肢の提示法が選択行動に及ぼす効果　―２種類の継時提示法の比較―	小野　浩一
	小野　洋平	虚偽検出における基礎的研究	谷口　泰富
	浅井　将史	情報の信頼度とコストが選択行動に及ぼす効果	小野　浩一
	壁谷　眞由美	中年期の被受容感が抑うつに及ぼす影響　―「希望」の観点から―	勝俣　暎史
	小林　加奈	女子大学生における摂食障害傾向と食卓状況との関連　―過去と現在の比較から―	鈴木　常元
	丸居　飛鳥	自閉症スペクトラム児に対するマッチゲームをとりいれた SST の効果	有光　興記
	鈴木　直樹	自律訓練法が自己肯定意識に及ぼす影響	鈴木　常元
	加藤　優子	救命救急センタ―看護師の職業性ストレスについて　―一般病棟看護師との比較から―	茨木　博子
	諸井　亮子	ＬＤ児に対する社会的問題解決スキル訓練の効果	有光　興記
	蒔苗　桂	不登校に対するありがとう療法と記憶療法	勝俣　暎史
	工藤　伶子	自律訓練法がコ―ピング柔軟性および精神的健康に及ぼす影響について　―受動的注意集中の観点から―	鈴木　常元
	山崎　史絵	自己肯定意識と社会的スキルが職業決定に及ぼす影響	茨木　博子
	横山　良子	絵本の読み方の違いが気分変化に及ぼす影響　―ひとり読み，読み聞かせ，読みあわせの比較―	茨木　博子
	足立　亞彌	在日留学生の対人恐怖心性に対する異文化間ソーシャル・スキル学習の効果	有光　興記
	鈴木　統子	うつ病患者の時間的展望　―時間的展望テスト（TPT）の適用―	勝俣　暎史
2008	正野　裕大	確率的条件性弁別における反応特性についての実験的分析	小野　浩一
	塩原　里佳	自己制御機能が衝動性に及ぼす影響　―パ―ソナリティ特性と行動指標からの検討―	永田　陽子
	飯塚　祥子	ネガティブな経験の意味づけ方と時間的展望との関連	茨木　博子
	矢島　友美	社会的スキルの獲得に親子関係の認識が及ぼす影響　―小学生の親と子の視点から―	永田　陽子
	國則　裕基子	自律訓練法が大学生の無気力に及ぼす影響	鈴木　常元
	中村　紗耶香	大学生における自己愛傾向と自我機能について	茨木　博子
	井上　美沙	役割過剰同一化傾向が持つ抑うつの脆弱要因に関する研究	有光　興記
	原　優子	高次脳機能障害者家族の介護負担感に関する研究	鈴木　常元
	石川　亮太郎	思考のラベリングを用いたマインドフルネス・トレーニングによる大学生の否定的情動に対する低減効果の検討	有光　興記
	西郷　海	ロールシャッハ反応からみた現代大学生の友人関係について	茨木　博子
	徳村　勇起	自律訓練法が持続的注意に及ぼす影響	鈴木　常元
2009	田中　仁秀	数息観に関する心理学的研究	茅原　正
	塚田　静香	随伴性感受性に及ぼす教示の効果	小野　浩一
	石岡　綾香	虚偽検出に関する基礎的研究　―末梢皮膚血流を指標とした質問法及び返答法の分析―	谷口　泰富
	吉田　卓矢	心理面接での成功体験に関するプロセス研究　―セラピストの視点から―	八巻　秀

修了年度	学生・氏名	修士論文題目	指導教員名
2009	秋本　純和	催眠が感情反応に及ぼす影響　―感情強調暗示と身体感覚強調暗示の比較―	鈴木　常元
	小松　広幸	体験的エクササイズを用いた心理的苦痛への実験的介入の効果　―痛み耐性の増大に関して―	有光　興記
	鬼塚　愛	初回面接における見立てに関する研究　―セラピストへのインタビュ―を通して―	八巻　秀
	加藤　智子	コラ―ジュ制作が気分変化に及ぼす影響　―個人法・同時制作法を用いて―	茨木　博子
	植松　荘子	催眠による無痛効果に及ぼす不安傾向の影響	鈴木　常元
	佐藤　雄太	中学生の怒りの表出方法が対人関係から受ける影響	永田　陽子
	下青木田鶴子	会話場面に関する反すう，思考抑制，回避が社交不安　と抑うつに及ぼす影響	有光　興記
	大貫　賢一	ビデオフィードバックにおける完全主義への認知的介入がスピーチ課題の自己評価と否定的見積もりに与える効果の検討	有光　興記
	神谷　英剛	目撃証言の信憑性を高めるパ―ソナリティは何か？　―行動抑制システムと目撃記憶との関連―	永田　陽子
	佐京　万里絵	家族機能と家庭の居心地が信頼感に及ぼす影響	茨木　博子
2010	米山　祥平	日本語発話の語尾決定における刺激性制御　―視覚刺激観察距離の効果―	小野　浩一
	井上　彰子	女性を対象とした腹式呼吸訓練による生理学的・心理学的効果	茅原　正
	須藤　千明	青年期における心理的離乳のタイプと統合型 HTP の描画 特徴　―家・木・人の関連づけに着目して―	茨木　博子
	占部　梨沙	樹木画からみた女子大学生の摂食障害傾向とその心理的特徴	茨木　博子
	吉田　宗佑	自律訓練法の背景公式によって生じる不安について	鈴木　常元
	吉岡　富美子	恋愛関係における強迫的疑念は何をもたらすか　―精神病理とコ―ピングとの関連からの検討―	有光　興記
	山崎　朱乃	心理面接における停滞への対処　―セラピストの視点からのプロセス研究―	八巻　秀
	廣瀬　弘文	心理面接における勇気づけのことば　―セラピスト・インタビュ―を通して―	八巻　秀
	小田　彩子	権威的暗示と許容的暗示に対する催眠反応性の比較	鈴木　常元
2011	腰冢　由子	VR-VI 反応分化におけるモデリングの効果	小野　浩一
	張　竹君	サンクコスト効果に及ぼす刺激変化と強化変数の影響	小野　浩一
	比賀　悠有	自己志向的および社会規定的完全主義が社交不安に及ぼす影響　―完全主義の不適応的側面に焦点を当てて―	有光　興記
	成田　佳織	心理面接における肯定的意味づけのプロセス研究	八巻　秀
	伊澤　翔太	介護従事者の動機づけが対人ストレスコ―ピングとバ―ンアウトに及ぼす影響　―介護付き有料老人ホ―ムに焦点を当てて―	茨木　博子
	畑中　優実	大学生における自閉症傾向と孤独感，ソ―シャル・サポ―トとの関連　―いじめ被害経験，対人スキ―マを媒介として―	有光　興記
	樫村　明美	弁明による加害者・被害者感情の低減効果に関する研究　―特性罪悪感と責任の有無の観点から―	有光　興記
	木村　悠	成人，健常児，及び発達障害児における視覚的注意に関する研究　―Change detection 能力の比較―	永田　陽子
	高野　智子	初回面接におけるジョイニングのプロセス研究	八巻　秀
	木原　聡一郎	電子メールを用いた心理相談の問題点とその対策の検討	八巻　秀
	齋藤　めぐみ	呼吸に合わせた暗示が催眠反応性に及ぼす影響　―呼気時と吸気時の比較―	鈴木　常元
	鈴木　薫	催眠下における自我強化暗示が自己イメージに及ぼす影響	鈴木　常元
	安藤　真知子	30 代女性における相互独立的・相互協調的自己観の違いと生きがい	茨木　博子
2012	佐川　優	メンタルローテーションにおける空間的イメージ方略	永田　陽子
	中本　将也	学校臨床活動におけるシステムの見立てとコンサルテ―ション　―　スク―ルカウンセラ―の視点からのプロセス研究　―	八巻　秀
	山本　江里	幼児期におけるコラ―ジュ表現の発達的特徴　―形式分析・内容分析から―	茨木　博子
	好井　和泉	糖尿病患者の病いの語りに対する質的研究	八巻　秀

修了年度	学生・氏名	修士論文題目	指導教員名
2012	天野　雄太	災害後における心理支援者のセルフケアに関する研究　―セラピスト自身のストレス体験を通して―	八巻　秀
	井ノ口　諒	大学生におけるノンバーバルコミュニケーションの違いと学校環境適応	茨木　博子
	中島　昌也	自律訓練法が対人恐怖心性に及ぼす影響　―受動的注意集中と森田療法の観点から―	鈴木　常元
	長嶋　彩	インテ―ク面接におけるクライエント理解の姿勢とプロセスの検討　―ブリーフサイコセラピストへのインタビュ―から―	八巻　秀
	阿左見　康成	ACT のワ―クショップが社会不安に及ぼす効果　―自閉症スペクトラム障害傾向の高い大学生を対象として―	有光　興記
	鎗水　早樹子	友人関係の発達的変化からみた青年期における不適応	永田　陽子
2013	庄司　竜介	ヒトにおける行動対比成立要因の検討	小野　浩一
	横尾　晴香	夫婦面接においてセラピストが感じる違和感への対処について　―セラピストインタビュ―を通して―	八巻　秀
	安藤　綾沙	人物に対する視覚的注意　―定型発達児及び軽度発達障害児における比較―	永田　陽子
	青木　康彦	ASD，ADHD，DCD 児における協調運動の困難と日常の活動に必要な運動スキルとの関連性　―座る姿勢，文字の視写，スポ―ツへの参加に焦点を当てて―	有光　興記
	中野　由美子	ぬり絵活動が精神・身体に与える影響　―気分尺度と生理指標を用いて―	茨木　博子
	古北　みゆき	ADHD 傾向が先延ばし行動と対人ストレスに及ぼす影響　―抑うつと自己思いやりの観点から―	有光　興記
	清水　雅弥	過剰適応傾向が作り笑いおよび対人ストレスに及ぼす影響	茨木　博子
	前野　隼兵	シングル・セッション・セラピ―におけるセラピストの心理的プロセス　―セラピストへのインタビュ―を通して―	八巻　秀
	渡辺　隆廣	ダンスによるソーシャルスキルおよび抑うつへの効果	鈴木　常元
2014	長谷見　純	ヒトの変動的行動に及ぼす視覚フィードバックの効果	小野　浩一
	氷室　元	自律訓練法が自己イメ―ジに及ぼす影響　―２つの背景公式による検討―	鈴木　常元
	齋藤　友香	対人関係に起因するネガティブなストレスイベントからの精神的回復過程―人生の浮沈曲線を用いた語りの内容から―	茨木　博子
	望月　大仙	ニューロフィードバックによる作業効率の向上	鈴木　常元
	原　大喜	青年期の学校不適応の要因について　―親子の信頼関係との関連性―	永田　陽子
	鳥居　恵	長期入院児家族のシステムの変化と心理社会的支援　―母親へのインタビュ―を通して―	八巻　秀
	金井　奈緒美	中高生の子どもを持つ母親の養育態度　―母親自身のアタッチメントとソ―シャルサポ―トの影響―	鈴木　常元
	野澤　舞姫	統合失調症の描画空間における「間合い」―健常者の家族画と比較して―	茨木　博子
	稲田　惟広	心理面接中に「失敗への危機感」を抱いたセラピストの意識および建て直し過程について　―セラピストインタビュ―による質的研究―	八巻　秀
2015	臼井　洋人	社交不安傾向が頭部と視線方向の知覚に及ぼす影響	永田　陽子
	山内　綾斗	自己制御機能がネットの利用に及ぼす影響について　―パ―ソナリティと行動からの検討―	永田　陽子
	田村　宏子	プレイセラピ―における初回面接での関係づくりに関する質的研究　―セラピストへのインタビュ―を通して―	八巻　秀
	久保田　将大	アドラー心理学における「課題の分離」の臨床適用に関する質的研究	八巻　秀
	砂田　祐介	動作法が立位姿勢，自体感および精神的健康に及ぼす影響	鈴木　常元
	高木　駿	未来展望に関する催眠が青年期の自我同一性に及ぼす影響	鈴木　常元
	梅橋　海歩人	セラピストの効果的な自己開示における文脈構成に関する質的研究　―セラピストインタビュ―を通して―	八巻　秀
	長　昌浩	ネガティブな経験を乗り越えた高齢者の人生の語りとその意義　―人生の浮沈曲線を手掛かりとして―	茨木　博子
	片山　舞	人格理解の補助手段として捉えたコラ―ジュ作品の分析　―共感経験と印象評定の関連から―	茨木　博子
	末吉　一貴	大学生における抑うつに対する怒り表出抑制の影響	鈴木　常元

修了年度	学生・氏名	修士論文題目	指導教員名
2016	長堀　理志	社交不安症患者と大脳半球の機能差　―慈悲の瞑想の臨床試験による検討―	有光　興記
	今竹　裕希	心理面接において聞き手が心地良く感じる発話速度の研究	永田　陽子
	井上　滉太	家族療法におけるジョイニングに関する質的研究　―非言語コミュニケーションの分析を通して―	八巻　秀
	澤野　圭佑	発達症児童の言語行動におけるマッチゲームを取り入れた認知行動的介入―ADOS を用いたアセスメントを踏まえて―	有光　興記
	赤澤　瑠美衣	妊娠・出産・産休体験が心理臨床活動に及ぼす影響　―女性臨床心理士へのインタビュー―による質的研究―	八巻　秀
	本多　哲也	訪問援助における心理臨床的配慮と工夫についての質的研究	八巻　秀
	増田　綾子	母子関係が女性のアイデンティティ再構築に及ぼす影響　―妊娠というライフイベントに着目して―	永田　陽子
	河上　大	ローレタリングが大学生の孤独感に与える影響　―レジリエンスと自己肯定感の関連に着目して―	鈴木　常元
2017	寺内　優太	社交不安症者の心臓血管運動に与える慈悲の瞑想の臨床心理学的効用	茨木　博子
	橋本　大樹	セクシュアル・マイノリティの心理的支援に関する質的研究　―支援者へのインタビュー―を通して―	八巻　秀
	望月　真以子	過剰適応状態にある大学生のアパシー傾向　―知覚されたサポートと心理的負債感との関連から―	鈴木　常元
	前田　小百合	児童養護施設における生活臨床に関する質的研究　―臨床心理士へのインタビュー―を通して―	八巻　秀
	松﨑　優和	自律訓練法が不安水準の変動に及ぼす影響　―注意バイアスを用いた心理・生理学的検討―	鈴木　常元
	増山　さとみ	愛着が大学生の自尊感情および抑うつに与える影響	永田　陽子
	岩間　由衣	社交不安症者を対象とした慈悲の瞑想プログラムが感情喚起刺激に対する脳波の偏側性に及ぼす効果	茨木　博子
	本多　由依	セラピストの無力感に関する研究　―インタビュー―を通して―	八巻　秀
	白間　綾	感情の調整能力が不安特性と社交不安に及ぼす影響	永田　陽子
	関　隼太郎	慈悲の瞑想プログラムが社交不安症者の反すう課題時における脳波と想起内容に及ぼす効果	茨木　博子
	山崎　美晴	高齢者のライフストーリー　―90 代の語りにみる心理的効果―	鈴木　常元

表 21

博士論文論題一覧

授与年度	氏名	博士論文題目
1977	中村　昭之	叢林生活に関する心理学的研究
1978	安藤　末廣	精神統御に対する調息の効果についての心理学研究
1979	馬場　和光	医学の哲学
1991	李　光濬	カウンセリングにおける禅心理学的研究：韓国人の心理学的構造の見地から
1996	谷口　泰富	禅瞑想の生理心理学的考察
1998	茅原　正	禅瞑想と時間体験に関する心理学的研究
2001	青塚　徹	刺激等価性に基づく言語の機能と構造に関する実験的研究
2007	佐瀬　竜一	自律訓練法における受動的注意集中と第 1 空間感覚練習に関する研究
2008	杉山　雅美	自律訓練法の認知変容に及ぼす効果に関する研究
2009	山岸　直基	人間行動の変動性とその機能
2015	久保　尚也	相対的弁別行動の形成過程に関する実験的研究
2018	小野　洋平	虚偽検出に関する生理心理学的研究：眼球運動の非接触的測定法および刺激呈示法の検討